県警に不正アクセス

外部にメール12万件送信

「情報流出なし」

熊本県警は7日、県警のメールサーバーが国外から不正アクセスを受けてアカウントが乗っ取られ、国内外の宛先に約12万件のメールが送信されたと発表した。このうち約1万9千件が到達したが、情報流出やウイルス感染は確認されていないとしている。県警は不正アクセス禁止法違反の疑いで調べる。

情報管理課によると、捜査などに関する重要資料はインターネットに接続していない独自のシステムで管理しており、流出の恐れはないとしている。現時点でメールの到達先から問い合わせはなく、被害も確認されていない。

同課によると、6日午前4時45分～午後5時半ごろ、県警のメールアカウントから大量のメールが送信されていた。複数の海外サーバーを経由して不正アクセスが試みられた可能性があるという。この時間帯に職員から「メールが送信できない」と同課に複数の相談があり発覚した。

サーバーには送信履歴と宛先が残っていたが、メールの件名や本文、添付ファイルの有無は見ることができず、インターネット上の住所である県警の「ドメイン」が到達先で表示されているかも不明という。

情報管理課の上田雅美次席は「サーバーの設定の脆弱性も含めて調べ、原因究明と対策強化に努める」としている。

（植木泰士）

原因究明と対策を

崇城大・吉岡教授

熊本県警のメールサーバーが不正アクセスを受けたことについて、崇城大情報学部の吉岡大三郎教授（47）＝情報セキュリティー＝は「捜査機関が被害に遭うこと自体、県民は不安に思う。原因を究明して対策を講じてほしい」と話した。

吉岡教授は不正アクセスを完全に防ぐことは難しいとした上で「侵入された後の被害を最小限に抑えることが重要だ」と強調。メールアカウントが不正利用された点は「システムの脆弱性を狙われたか、迷惑メールを職員が開けてしまってIDとパスワードを盗まれた可能性がある」とし、機器の設定の見直しや職員研修の必要性を指摘した。

（後藤幸樹）